

TOKIWA

2023

SUMMER

vol.212

INTERVIEW

入院から退院までの支援 そして地域へのかけはしを



今号では、季美の森リハビリテーション病院地域医療連携室ソーシャルワーカー 岩崎 操様にインタビューしました。

一 どのようなきっかけで今のお仕事を するようになったのでしょうか？

高校時代、社会福祉士の仕事があることを知り、福祉を勉強したいと思いました。大学では社会学部で社会福祉専攻。その時代は高齢社会が加速する中、介護保険法の公布、社会福祉制度が目まぐるしく出来上がっていく時代背景でした。通所介護の生活相談員時代は介護保険のことを学び、その後在宅のケアマネジャーの経験を経て、季美の森リハビリテーション病院が開院、医療ソーシャルワーカーとして異動、9年が経過しました。初めての病院での仕事に不安もありましたが、上司や多くの仲間を支えられこの仕事を続けることができていると感じます。また、ケアマネジャーや通所介護の相談員時代にソーシャルワーカーに会う機会も多く、私にとっては憧れの仕事でもありました。

一 これまでどのような苦勞がありましたか？

患者様は一人ひとり同じ相談はなく、またこれまでの生活や背景、家族構成、障害も異なります。そのため、その中で答えが一つではないこと、この仕事には正解がないことに不安に感じることはあります。経済的な困窮、社会的に複雑なケースなどありますが、多くの患者様、ご家族様との関わりを持ち、退院後どのように地域での生活を送っていくか。一

に考え提案していくことに苦勞というより、やりがいや楽しみを感じ充実した毎日を送っています。

一 どのような時にこの仕事をしていてよかったですとされますか？

患者様の入院生活の困りごとや退院調整を行い、最後に患者様やご家族様から「ありがとう」「あなたがいてくれたからよかった」と心温まる言葉をかけていただけるとこの仕事をしていてよかったと心から思います。また、難渋したケースであっても、その言葉を頂くと明日からまた頑張ろうという気持ちになれます。

一 今後どんなことに取り組んでいきたいと思っておられるか、抱負をお聞かせください。

地域の介護施設をはじめサービス事業所と気軽に情報共有や情報交換のできる関係性を築いていきたいです。リハビリテーション病院では地域との連携が必要です。また、コロナの感染対策で地域とのつながりも希薄になってしまったことを感じており、今後は自分から地域に出向き沢山の職種の方々と交流できる機会を作りたいと思っています。

一 ときわ園にはどのような魅力があるか教えていただけますか？

スタッフの明るい笑顔だと思います。酒井施設長をはじめ、相談員の方々、



季美の森リハビリテーション病院
地域医療連携室
ソーシャルワーカー
岩崎 操様

いつも電話に出て下さる皆様が気持ちのよい対応をして下さります。施設の方々は何度かお会いさせて頂いておりますが、その中で、皆様が一生懸命に利用者様のことを考え、地域の特性（自然）を生かした活動に取り組まれていると知りました。どの写真を見ても利用者様やスタッフの笑顔があふれている、温かみのある施設です。それがときわ園の魅力と感じます。

一 ときわ園には今後どんなことを期待しますか？

季美の森リハビリテーション病院は脳血管疾患や骨折等の整形疾患のリハビリに特化した病院です。患者様が自宅退院後、もしくは施設入所後に地域でどのように生活を送るかが課題と感じています。ときわ園は入所施設をはじめ短期入所、通所サービス、居宅介護と地域で介護を必要としている人にとって大変貴重な施設であると思います。利用者様が住み慣れた地域でその人らしく役割を持って生活が送れることが理想でもあります。利用者様やそのご家族にとって、地域で小さな楽しみや喜びが見つかる場所、笑顔になれる場所を提供してくれる、それがときわ園であってほしいと思います。

岩崎様、この度はインタビューに応じてくださりありがとうございました。

怒りのマネジメント

そばにいる人が忍耐強いと安心できます。介護を受ける方もそのように感じると思います。しかし、最近はあまり運転に代表されるように、すぐにキレる、すぐに腹を立てる人を多く目にします。

こうしたイライラや怒りの感情をコントロールするスキルとして、近年アンガーマネジメントというスキルが注目されています。一般社団法人日本アンガーマネジメント協会のホームページには、「アンガーマネジメントは怒らないことを目指すものではありません。違いを受け入れ、人間関係を良くする心理トレーニングです。」と書かれています。つまり、イライラしないということではなく、怒りを感じたときにどのように適切にコントロールするかのスキルを身につけるということです。例えば、介護をしていてご利用者との関係でイライラすることがあった

時は、怒りのピークは6秒と言われているので、深呼吸をして心を落ち着かせたり、その場を一旦離れることが助けになります。昔から「言い争いになってしまう前にそこを去れ」と言われている通りです。また、可能ならその場の対応を他の職員に代わってもらうことも役立ちます。更に、自分の感情や思いを信頼できる他の人に聞いてもらうことも気持ちを落ち着かせる上での助けになります。但し、ご利用者の人格を否定するようなことを言ったり、全て自分が正しく相手が悪いという話は避けた方が良さそうです。そうした話と同僚が共感してしまい、虐待につながってしまうケースがあるからです。

こうしたスキルは家庭内で介護を行っている人にも役立つと思います。他にもたくさんのスキルがありますが、詳しくは、様々な本やセ

ミナーなどで知ることができます。イライラやストレスの原因が増えている現代社会ですが、「穏やかな心は体に良い」と言われているように、健康のためにイライラや怒りを上手にコントロールしていきたいものです。



修善寺竹林の小径

火が出たらまず何をする？

近年、火事が起こる要因は以前より増加しています。生活が豊かになることで起きる電気火災、地球温暖化による空気の乾燥・気温の上昇による火災、さらには地震などの自然災害の2次災害として生じる火事があります。それでも火災はあつという間に広がります。およそ2分で初期消火は限界を迎え、3分程度で火の手が天井まで届くようになります。最初の2分の間に初期消火を行えるかがカギとなります。

ときわ園では、そのような万が一の

時に備えて消火器の訓練を毎年5月に実施しています。併せて行われる防災教育でも、消火器がどこにあるのかを把握するよう指導しています。消火器を使用する際の3つの動作を確認し、火の根元を狙って消火する練習を行っています。

もちろん消火器を使用しなければならない場面がないことが一番ですが、非常時でもご

利用者に安心していただけるような環境づくりを目指しています。



的に向けて消火器発射!

理事長
三枝 弘朋



業務サポート部門
酒井 潤



地域医療連携室の話し合いの様子

多職種カンファレンス前のひととき



デイサービスの活動

毎日日替わりのレクリエーションをご用意しており、ゲームや工作・歓談で楽しい時間を過ごして頂いております。

機能訓練室や庭園では皆様が機能訓練に奮闘し気持ちの良い汗を流しておられます。フロア越しに広がる畑では旬な野菜の収穫を楽しみ、次の収穫に向けて種蒔きや植え付けを利用者様同士で協力し進めておられます。

季節の移ろいを私たちとともに楽しみながら自宅での生活を続けていきましょう。



芝生の散歩でパンザイ!



こもれびのもとで歩行訓練



完成した作品と...



花の絵を...



晴空がお似合いです♪



ボールを使った機能訓練



大物を狙って一本釣



棒倒しゲーム中



青空のもとで花摘み



ヒマワリの植え付け



トウモロコシの種蒔き



100点を狙って...



集中して工作レクを



パワーリハビリに奮闘中



ハードルを使用した跨ぎ動作



移乗動作訓練中



破顔一笑(^^)



竹林の散策



収穫は楽しいですねと笑顔



スナップエンドウの収穫!



ニンニクの収穫!



ニンニクを乾燥させるために...



紫陽花とともに



麦わら帽子がお似合い♪

ICT利活用と業務整理の取り組み

私たちの日々の仕事には介護ソフト「ほのぼの」に代表されるようにICT（情報通信技術）が欠かせません。これらの導入により従前より業務の効率化や職員負担の軽減が図られてきたと思います。しかしどんな時代でも課題はあるもので、仕事をする上で多くの職員から既存のシステムに対する改善希望が寄せられています。

そこで今年に入り、ICT利活用と業務整理を促し実行するための少数チームを編成し課題に取り組むことになりました。具体的なものとしては、

- ・利用者情報（記録）の入力、検索、閲覧、活用法の改善
- ・職員向けの情報伝達、周知媒体の簡素化と内容の吟味
- ・不要な記録や紙媒体、掲示物の廃棄や整理

といったものをターゲットに考えています。ここでの目的はいつでも必要な情報を効率よく取得できるよう「整理・整頓」を行うことにより、ご利用者や職

員が豊かな生活を送れるための時間と「のりしろ」を作ることです。もちろん一人やチームではやれることが限られるため、皆の理解と協力を得ながら一步一步進めていけたらと思います。



記録システムへの入力サポート



水分記録の様子



掲示物の整理

新館2階
ユニットリーダー
元吉 泰一



新卒採用職員を紹介します

本館1階介護職員
渡邊 航大



これから介護現場への就職を考えている方へ

私が今の仕事を選んだのは、少子高齢化社会となった今、私のような若者が支えていくことが求められ、少しでも高齢者の方々が安心して生活できるようになって欲しいと思ったことから始まりました。

ときわ園では、早番、日勤、夜勤といった様々なシフトを経験することができます。人によってシフトが決まっていることはなく、その時々によってシフトが変わっていきます。そのため、ときわ園での1日の流れをより深く理解することができます。また、諸先輩方のご指導もとても丁寧なので、こちらに就職してよかったと感じております。介護現場でしか学べないこともたくさんありますので、みっちり教わりたい方はときわ園への就職を強くお勧めします。

まだまだ新人ではありますが、ご利用者に丁寧な介護を実践できるよう、日々研鑽に励んでいきたいと思っています。



ご利用者との触れ合い

新館3階介護職員
大野 媛香



ときわ園に就職して良かったこと

高齢者分野に興味を持ち始め、ときわ園に就職し、一人ひとりのご利用者とのかわりを持たせていただいています。その中で、私がときわ園に就職して良かったと思うことは、この現場でしか出会えないご利用者の笑顔に触れることができるということです。そして、自分が役に立てたというやりがいやご利用者の成長を感じられることも就職して良かったと思える瞬間でもあります。これからも多くのご利用者との出会いを大切に、自分自身の成長にも繋げていけたらと思います。



ホットケーキの提供

出来なかったことが出来るようになる — デイサービスこもれびの機能訓練の目標 —

デイサービスセンター
こもれび
機能訓練士
鈴木 洋一



機能訓練とは？

まず、デイサービス（通所介護）における機能訓練とは、整形外科などで行われている怪我や痛みを治療するためのリハビリとは異なります。機能訓練とは、「利用者ごとに心身機能や生活環境をふまえ生活機能の維持・改善を図り、住み慣れた地域や居宅（自宅等）で可能な限り自立して暮らし続けること」と定義することができます。生活機能とは、人が何らかの目的を持って行う、あらゆる生活行動を指します。歩行や食事、入浴、着替え、排泄等の日常生活に必要な動作はもちろん、家事や自宅での役割、余暇活動（趣味）なども対象となります。

こもれびで実施している機能訓練の主な取り組み／特色は

- ① 個々に機能訓練を提供
 - ② 四季折々の花が咲く広大な庭園での歩行訓練
 - ③ 自立支援
- 上記3点となります。それぞれに紹介していきます。

① 個々に機能訓練を提供

当センターでは、ご利用者一人ひとりに機能訓練指導員（リハビリ担当職員）が直接、機能訓練を提供して

います。それは、お一人お一人、心身機能や生活環境が異なるからです。現在デイサービスでの機能訓練はグループ（5名程度）で行う事が増えていますが、個々にお話を傾聴し、その日の体調や痛み、困りごとに合わせ、それぞれのペースで目標達成に向けた機能訓練を提供しています。※具体的な目標の一例として、「シルバーカーを使用し買い物へ行き自分で品物を選びたい」「自分で靴下を履けるようになりたい」「グラウンドゴルフを再開したい」「庭の手入れを続けたい」等様々です。

② 四季折々の花が咲く広大な庭園での歩行訓練

ときわ園は、4400坪の広大な敷地に四季折々の花が咲く庭園での歩行訓練を行うことができ、とても好評を得ています。当園を見学し庭園を見て利用を決めてくださる方々が多くいらっしゃいます。歩行訓練と同時に花々や季節から認知症予防のための見当識訓練、回想法も取り入れています。

③ 自立支援

これは、機能訓練のみではなくデイサービスの利用時間を通してデイ

職員全体での取り組みとなります。ご利用者の日常生活動作で出来ること（自立）や見守り、介助が必要な事を把握・共有し職員が過剰な介助は行わないようにしています。ご利用者に、洗い物、洗濯物たたみ、掃除、庭仕事等をお願いすることがあります。趣味や特技に合わせ季節ごとのカレンダーや飾り物作成、庭に咲いている花を摘み活けて頂くこともあります。これらは、今後も居宅（自宅等）で同様の生活機能を維持することを目的として行っています。そして、役割活動や趣味、特技がある方は、それが生き甲斐へとつながり生き生きとした生活を送ることができています。

職員全体での取り組みが功を奏し、2年連続でADL維持等加算Ⅱ（利用者の自立支援等により効果的な取組を行い、日常生活動作を良好に維持・改善する事業者に対する介護報酬）の算定を行うことができました。

最後に、ご利用者が、「今まで出来なかったことができるようになった」「目標を達成することができた」「家族の負担が軽減した」それらの声が私の喜びであり、そのお手伝い出来ることに幸せを感じます。

BOSSを使用したトレーニングに参加

業務サポート部門
出雲 信好



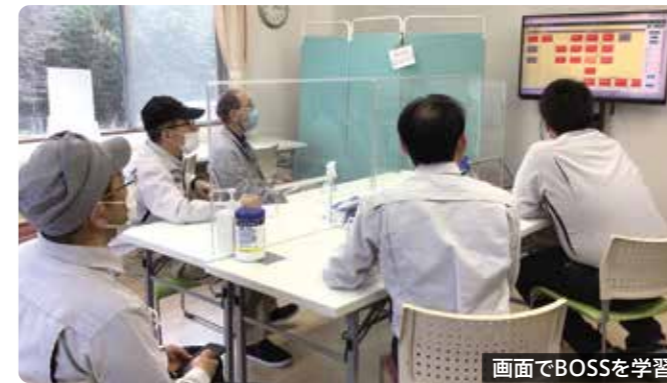
3年ほど前から、「災害対応工程管理システム(BOSS)」の導入計画が進められてきました。この災害対策マニュアルに精通し災害に適切に対応するために、これまでも何度か研修をしてきました。

今年の3月と5月には「BOSSとは？BOSSの使い方」と題して、卓上でフローチャートを見ながら発災時

の初動対応の研修を行いました。今回の研修は、館内放送を使う基準、他の職員との連携、救急・消防、関係業者への連絡、大型自家発電装置の始動のタイミングなどを再度確認し整理する機会になりました。防災監視盤の見方も復習できて良かったです。火災発生場所の確認だけでなく、煙感知器や熱感知器と連動して

消防に通報されるシステム、防火扉が閉まる原理など、再度丁寧に教えていただきました。

BOSSを使えば災害時に行うべき行程が一目でわかり、落ち着いて行動するよう助けられます。今後も研修からよく学び、実際に災害が起きたときに適切に動けるように努めていきたいです。



画面でBOSSを学習



BOSSのフローを話し合う

新型ロケット打ち上げ失敗から 得られる教訓 その2

施設長
酒井 章年



前号では、日本のH3ロケット打ち上げ失敗について書きました。悲壮感が漂っていたり、記者からの厳しい追及があったりなど、全体的に消極的な雰囲気がありました。

4月20日、別の新型ロケットがテキサス州から打ち上がりました。史上最大のロケット、スペースX社のスターシップです。ところが、この打ち上げもみごとに失敗！機体は縦に回転し始め、打ち上げ後4分で、地上からの指令で機体は破壊されたのです。

しかし、地上の様子はH3ロケットの時と全く異なっていました。なんと、大勢集まっていたスペースX社の

社員からは拍手喝采が起こり、大歓声が上がったのです！失敗を失敗とみるのではなく、成功に向けての大きな前進と考えるこの見方は世界中の多くの人々に感銘を与えました。

最初から完璧を狙っていくと失敗したときの反動が大きいのにに対して、スペースX社の場合は失敗をあえて重ねることで向上を図っていくという姿勢です。

業務を改善していく際には様々な試みに挑戦していく必要があります。

す。うまくいかないとしても、そこはトライ&エラー、教訓を活かして次に繋げていくことが重要です。ときわ園もそのような考え方で様々なことにチャレンジしていきたいと思ひます。



ロケット打ち上げシーン



個々に機能訓練



歩行訓練



自立支援

活動ログ

4/17

RPAとは何ですか？

RPAとは何でしょうか？これは、Robotic Process Automationの略で、Windows上の作業を自動化する一種のソフトウェアロボットです。特別養護老人ホームときわ園においてもパソコン上で行う多くの作業がありますが、決まった手順で多くの分量がある作業は少なくありません。それらをいわば

ボタン一つで処理できれば相当の省力化を図ることができます。それがRPAの強みです。今年度は事業計画の中で、ロボット導入の検討を積極的に行うことが謳われています。その一環として専門業者によるセミナーが行われ、導入を検討する有意義な機会を持つことができました。



セミナー中の様子

4/19

宅配寿司を食す会

施設でのご飯は、基本的にお肉やお魚は加熱調理されているため、なかなか生の美味しいお魚を食べる機会がありません。コロナの緩和のご時世ですが、安全を第一に施設ではまだ外食イベントはできません。それで、せめて少しでも、介護職員が企画、実現したのが、宅配寿司メニューからご利用者に好きなものを選んでいただき、昼食時に提供というプラン。

皆様の希望はもちろん、アレルギーの確認や食事形態に合わせた提供方法などもしっかりと調べ、準備。食中毒や誤嚥にも細心の注意を払いました。久しぶりのお寿司に、皆様に大変ご満足いただけ、「美味しかった!」「外食でスシロー食べたいって家族と話していたのよ!」など、お寿司に大変喜んでいただけて、私たちまで幸せな気持ちでいっぱいになりました。



宅配寿司にお喜び

4/28

赤ちゃん来園

育休中の職員が、産後ときわ園に赤ちゃんを連れて来ました。みんな赤ちゃんにメロメロで、貴重な赤ちゃんとの対面タイムとなりました。ときわ園は本当に子供を大事にする職場で、産休・育休はもちろん、妊娠中の職員にも負担がかからない業務割り振りを心がけます。また急に子供の体調が崩れる時などは、看護休暇を使って休むことも

できます。ときわ園には小さい子供を育てている職員が多いのです。子育ての経験がある職員からは、「分かる、分かる!今が一番大変な時だから休んで!!」と、快くフォローしあう精神が職員間にあり、ホッとすることもあります。ときわ園では職員同士も助け合いの精神で、公私共に支え合って毎日過ごしております。



赤ちゃんとの窓越し面会

編集後記

季節の移り変わりは非常に早いものです。つい最近まで寒かったのに、あっという間に暑い時期になりました。この編集後記を書いている時点では梅雨に入ったばかりですが、今年の夏はどのような感じになるのでしょうか。異常気象はあるものの、できるだけ季節感を楽しみたいと思います。夏は夏で、楽しめるものは沢山あります。マイナスのことばかりではなく、プラスの部分にいつも目を向けていきましょう。

